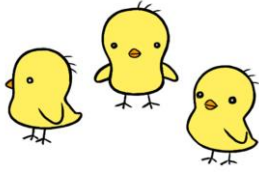


ひよこだより



東京都立大塚ろう学校
乳幼児教育相談
令和元年6月 No.3

難聴疑似体験

蒸し暑い日が続いています。雨での外出は大変ですが透明な傘にあたる雨粒、ベビーカーにあたる雨粒を見ながら歩くと楽しく歩けたという育児記録がありました。これから始まる梅雨の雨を少しでも楽しみに変えて外に出たいです。



先日、本校では学校公開がありました。1日目は2歳児グループ活動の公開でした。手遊びをしたり、体操をしたり、絵本を見たりした後、梅ジュース作りをしました。木になっている梅の実を見た後に梅を洗い、ヘタを取り、梅に穴をたくさんあけました。瓶の中に、穴をあけた梅と氷砂糖とお酢をみんなで入れました。中のお水（ジュース）が増えていく様子も学校に来るたびに見ていきます。出来上がりが楽しみです。

2日目の土曜日は平日学校になかなかいられない保護者の方を対象とした難聴疑似体験の保護者講座を開催しました。補聴器会社さんの御協力でイヤーマールドの型を取るときに使う印象剤を参加者の方の両耳に入れてもらいました。両耳がふさがれると、40dB程度の軽度の伝音性難聴の状態になります。

伝音性難聴は、外耳・中耳において音が伝わっていく過程に原因がある難聴です。ひよこ・ことり組のほとんどのお子さんは、内耳や聴神経に原因がある感音性難聴です。音が聞こえにくいことに加え、単に音を大きくしても音が歪んで聞こえるため、声は入っても、何という言葉なのかを認識するには困難がある場合が多いです。聞こえるお父さん・お母さんには、お子さんと全く同じ聞こえを体験することはできません。できるのは「疑似」体験になります。でも、疑似とはいえ体験してみると、聞こえにくいということがよく分かります。その状態に比べ、更に聞こえにくく、音が歪むとしたら…それを考えながら体験をしていきます。伝音性・感音性の違いについてしっかり理解した上での体験でした。

2時間の体験終了後に感想をお聞きしました。以下のような感想をいただきました。



音楽や環境音の聞き取りで…

- ・全く聞こえませんでした。寂しい感じがしました。(0歳児お父様)
- ・聞こうと意識しないと聞き取れませんでした。(0歳児お母様)
- ・音楽は雑音でしかなかった。音楽がかかっているために本来聞きたい声がかく聞こえませんでした。(0歳児お父様、0歳児お母様)
- ・孤独を感じた(1歳児お父様)

模擬授業体験では…

- ・内容がわからずやきもきました。(0歳児お父様)
- ・母音が同じ言葉を聞き分けるのが難しかった。(0歳児お父様)
- ・最初の言葉を追いかけるように聞いてしまうので話が終わるころには何と
言っていたのか分からなくなりパニックになる。(0歳児お母様)
- ・後ろの席で雑音があるとほぼ何も聞こえない。勉強はかなり難しい。(0歳
児お父様、0歳児お母様)

これからの生活で生かしたいことは…

- ・日々コミュニケーションをしっかりとりたい(0歳児お父様)
- ・伝わりやすいようにするにはどうしたらいいか考えて暮らしていこうと思う。
正面を向いて接しようと感じた。(0歳児お父様)
- ・手話を含めた音以外のコミュニケーション手段も積極的に使っていき
たいと思った。(0歳児お父様)

他にも、「実際に印象剤を耳に詰めてみると不快感を感じた。今子供はイヤーマールド作成中で補聴器をつけたときにはずすとイライラしてしまうかなと思っていましたが子供の大変さを理解し対応していきたいと思いました。」という感想を話されているお母様もいらっしゃいました。

今回の体験は御両親、おじい様、おばあ様合計14名の方に参加していただきました。皆さん、お子さんと接するとき工夫していこう、工夫しなければいけないと感じていただき、多くの方から「とても良い体験だった。」と感想をいただきました。次回は秋に実施しますので、まだ体験されていない方はぜひお申し込みください。

(文責：海保)

